

地域をテーマにした 課題解決演習を受講して



富山大学都市デザイン学部PBL受講生グループ

PBL = Problem Based Learning, Project Based Learning

(問題解決学習, プロジェクト学習)

全学横断PBL・地域デザインPBL

1つのテーマに対してデザイン思考のプロセス（**観察→分析→発想→試作→評価**）を繰り返し実践しながら、チーム全体で具体的な解決に取り組む実技演習



↑
これまでの学び
教養科目, 各学科の科目,
学部共通科目, 専門知識・スキルなど

↑
データサイエンス
大量の数値データから
情報を読み取る能力

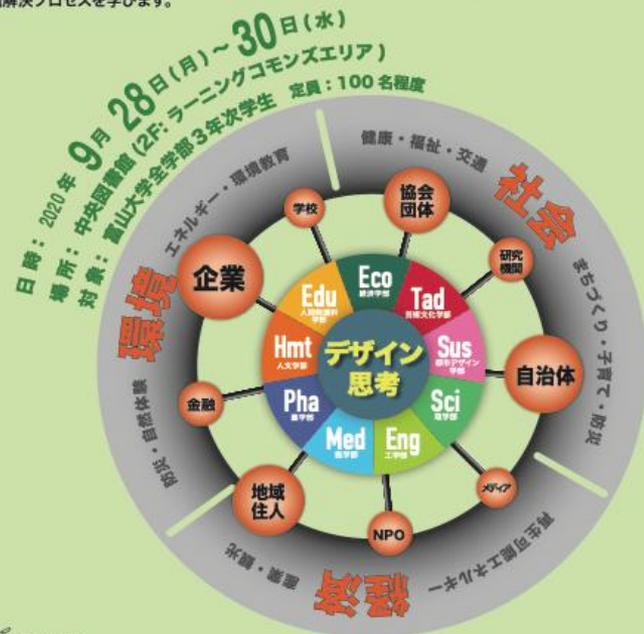
全学横断PBL

異なる専門教育を受ける学生らが混成チームを組み、デザイン思考による協働ワークショップを通じてイノベーティブな課題解決を目指す。

- 富山大学全9学部の3年生以上が対象
- 3日間の集中講義形式
- 希望テーマについて混成チームで議論
- 教員や企業・行政の方とも協議
- 新たな解決策の提示を目指す
- 3日目に成果を発表

University of Toyama : Design Thinking Education デザイン思考 × 専門性 = 社会が求める人材

富山大学の全学部の学生を対象とし、異なる学部で異なる専門教育を受ける学生達が混成チームを組み、デザイン思考による協働ワークショップを通じてイノベーティブな課題解決を目指します。個々の学部の中では狭くなりがちな視野や発想の幅を拡げ、異なる専門性を有する者同士のコミュニケーションがいかにか効果的にイノベーションを生み出し得るのかを体験的に学修します。実施にあたっては、学内のみならず企業や行政とも連携し、産官学の協働によるクリエイティブな課題解決プロセスを学びます。



ここが Point

- さまざまな他学部学生との共創、だから生まれ出るイノベーション！体験総合大学の利を活かした融合教育、その無限の可能性、共創の有用性に気づきましょう。やって見なければもったいない！
- 社会人（産学官生）との協働による、より実践的な学修軌上の作業に止まらないよう、様々な分野の社会人の方々にも加わってもらっての実学、生きたインターンシップ！
- 多様なテーマの中から選んで、チャレンジ！「共通目標」に沿った提示テーマの中から、興味のあるものを選び、モチベーション高くチャレンジ！
- 自身の専門性の再確認、今後（進学・就職）の応用展開に役立つ異なった専門の人達と協創することにより、自身の深い専門がいかにか必要か、イノベーティブに有用かを再認識！



富山大学
富山大学

〒930-8555 富山県富山市五福3190

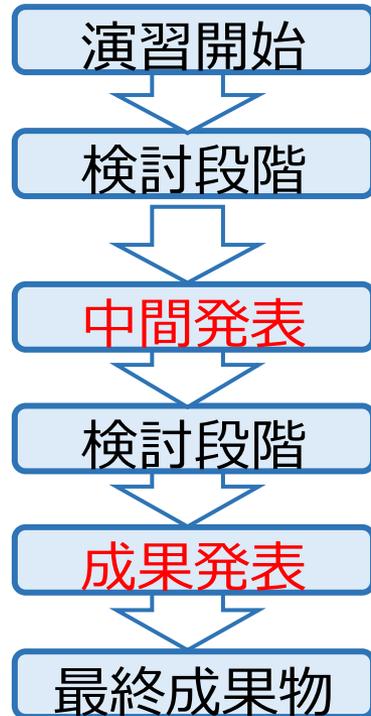
学務部 学務課 Tel. 076-445-6078 E-mail: j-gakumu@adm.u-toyama.ac.jp URL: https://www.u-toyama.ac.jp

令和2年度から夏期集中講義で開講!!
富山大学の学際融合教育プログラム「全学横断PBL」

地域デザインPBL

都市デザイン学部の3学科（地球システム，都市・交通デザイン，材料デザイン）の**学生が協働して，幅広い領域にまたがる地域問題の解決に取り組み，具体的な形にまとめ上げる。**

週1回連続2コマ×8週間



都市デザイン**学部**の**3年生全員** → 学科混成で**20グループ**

ペアラーニング，グループワーク，**フィールド実習**，個人による思考を繰り返す，解決策（試作1）をまとめる。

試作1を**ポスター発表**して，教員，行政，企業，各種団体，住民などから意見・アドバイスを受ける。

検討と提案を繰り返す，解決策（試作2）をまとめる。

試作2を**口頭発表**して，教員，行政，企業，各種団体，住民などから意見・アドバイスを受ける。

今後の課題も合わせて，**成果を報告書**としてまとめる。

すごろくで、まちづくり

アルミタウン「すごろく」制作
-アルミ技術でいのちに寄り添う-



富山大学
都市デザイン学部 地球システム科学科
3年 伊藤綾花

1. 概要

テーマ：「**すごろくで遊びながら、
SDGsの達成を目指して理想のまちをつくる**」

対象：**大学生～社会人**

今回は、
都市デザイン学部の1年生恒例の
「立山合宿での活用」を目標に、
新1年生が「まちづくり」や「SDGs」
を意識するきっかけになるような
すごろく作りを目指した！



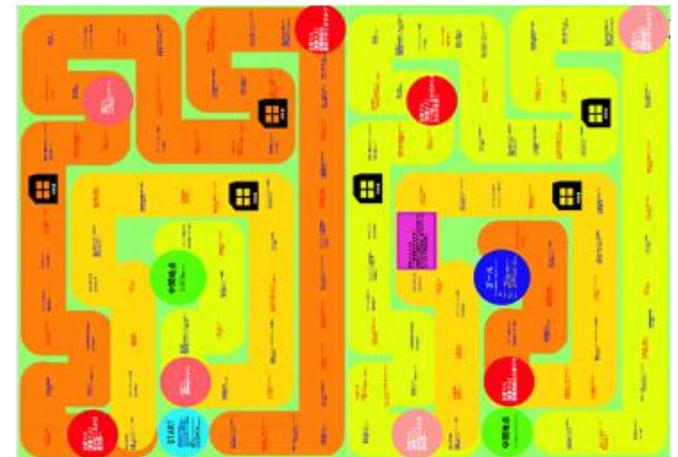
2. ゲームの工夫点

地球・材料・都市交通

都市デザイン学部3学科の要素を取り入れたゲーム

- ・ 災害がなぜ起こるのか、どんな被害が想定されるのか、を考えるマス
- ・ 材料（木材・コンクリート・金属）に関する豆知識をカードに記載
- ・ 富山らしさを取り入れたマス

おいしいホタルイカを食べる
ライチョウに出会う など



災害マス



材料カード



富山らしさ



2. ゲームの工夫点



- 材料を集めて施設を建設し、理想のまちをつくる
- ゴール後にSDGsについて考えるための仕組み

<施設の組み合わせと、達成できるSDGsの例>



いずれか2枚で



3. すごろくを通して学べること

災害について学び、防災意識が高まる

材料について学び、都市を支えるアルミ技術への関心が高まる

「SDGs」を意識した、まちづくりを学ぶ

「都市デザイン学部」として
「持続可能なまちづくり」に貢献する
ための素養



画像の出典

かわいいフリー素材集 いらすとや <https://www.irasutoya.com>

ダム : <https://mensdrip.com/travel/hokuriku-kankou22>

発電所 : <https://industry-illustration.com/02-manufacture/174-free-3d cg.html>

金属材料 : 有限会社藤澤金属 www.e-zairyouya.com

富山大学 : 国立大学法人 富山大学 <https://www.u-toyama.ac.jp>

SDGsロゴ・アイコン : 国連広報センター <https://www.unic.or.jp>

若者にとってのSDGs

富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科 3年
長井 大介

1. 私にとってのSDGs

普段の暮らしの中で…

- ・ 食べ物を残さない
- ・ お店で無駄なものを買わない
- ・ ゴミの再利用を意識する
- ・ 好きなお店を買って応援する

授業を受けていて…

- ・ グループワークの大切さ
- ・ 興味あることには
一度触れておく

1. 私にとってのSDGs

普段の暮らしの中で…

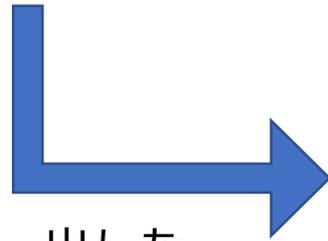
- ・ 食べ物を残さない
- ・ お店で無駄なものを買わない
- ・ ゴミの再利用を意識する
- ・ 好きなお店を買って応援する

授業を受けていて…

- ・ グループワークの大切さ
- ・ 興味あることには
一度触れておく

2. 授業の中でのSDGs～地域デザインPBL～

テーマ：
南富山地域の
拠点中心型まちづくり



出した
答えは・・・



Step.1

カメラ片手に歩き出そう
～魅力の再発見～



Step.2 チャレンジショップの展開

チャレンジショップとは？

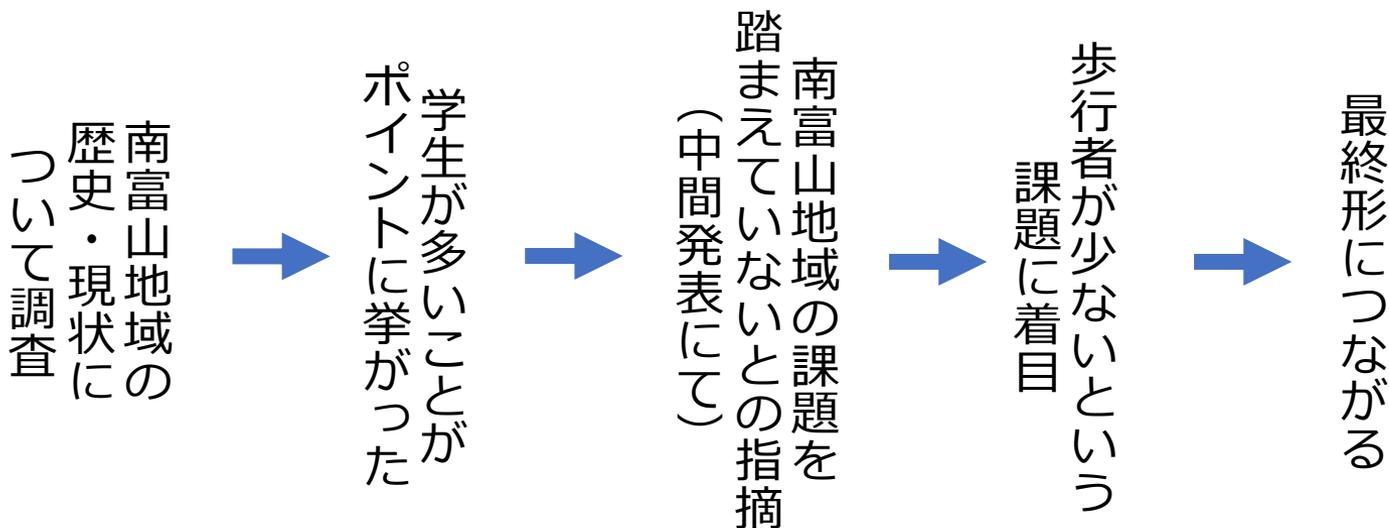
- ・店舗の創業や、新規事業の展開を検討する人に向けて店舗貸し出しを行うもの
- ・家賃が低く、かつ、経営のアドバイスも受けられる



歩こうとする人々にとってもより
楽しみや目的を持って歩けるようになる！！

2. 授業の中でのSDGs～地域デザインPBL～

議論の流れ



3. 授業の外でのSDGs～越中大手市場～



- ・ 富山市の大手モールで18年続く定期市
- ・ お店どうしの仲がとても良い
- ・ 来る人たちが面白くて個性的

4. まとめ

- ・地域と関わることで自然とSDGsを感じることができた大学に入ってから3年間だった。
- ・今後も地域と関わることのできる活動をできる範囲でやっていきたい。

若者にとってのSDGs

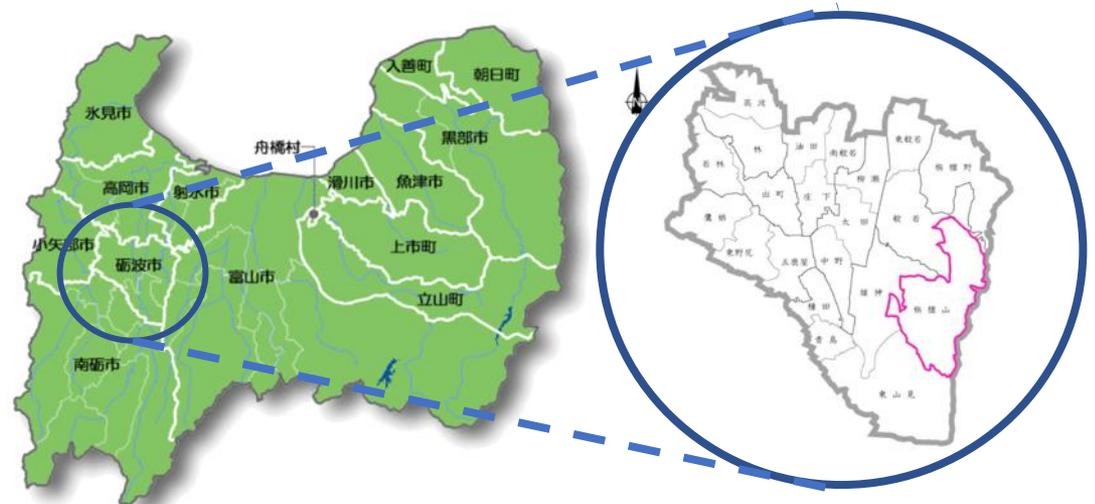
～梅檀山地域の
防災・減災プロジェクトを通して～

富山大学都市デザイン学部地球システム科学科

3年 望月ちほ

富山県砺波市 梅檀山(せんだんやま)地区

- 富山県砺波市東南部の山間部
- 150世帯401人 64歳以上が50%→**超高齢地域**
- 特産物・観光地
せんだん山そば・となみ夢の平コスモスウォッチング



事前調査・現地調査

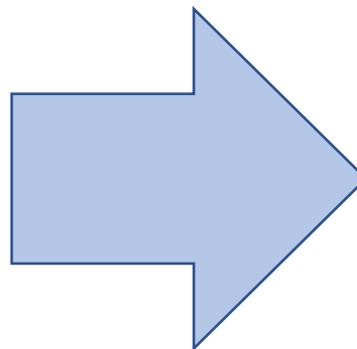


- 現状の把握・課題の発見
 - 公民館にて防災担当・住民の方々との意見交換
 - 観光地の見学
-
- **いくつかの新たな課題**
 - **過疎化が防災の対策に影響**



課題

- 警戒区域内に設置された避難所
- 日中、高齢者のみの避難
- 情報提供のタイムラグ
- 孤立時の対策
- 情報収集の少なさ



解決案

課題と解決案①

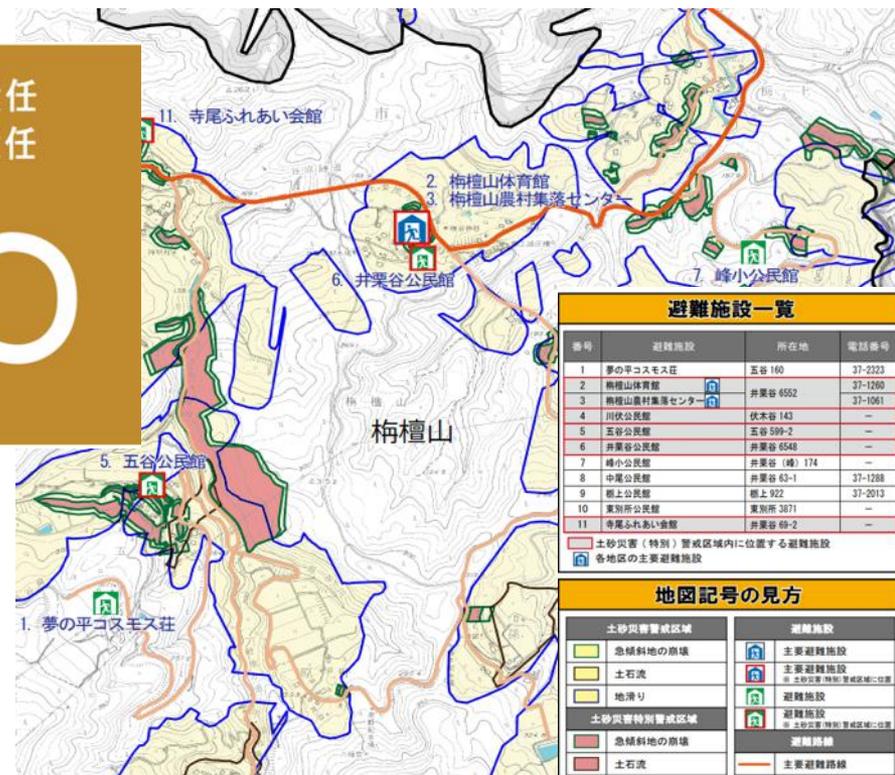
- 警戒区域内に設置された避難所

- 避難所を区域外に
→慣れ親しんだ場所
→変更してしまうとわか

12 つくる責任
つかう責任



工事で区域内から区域外へ



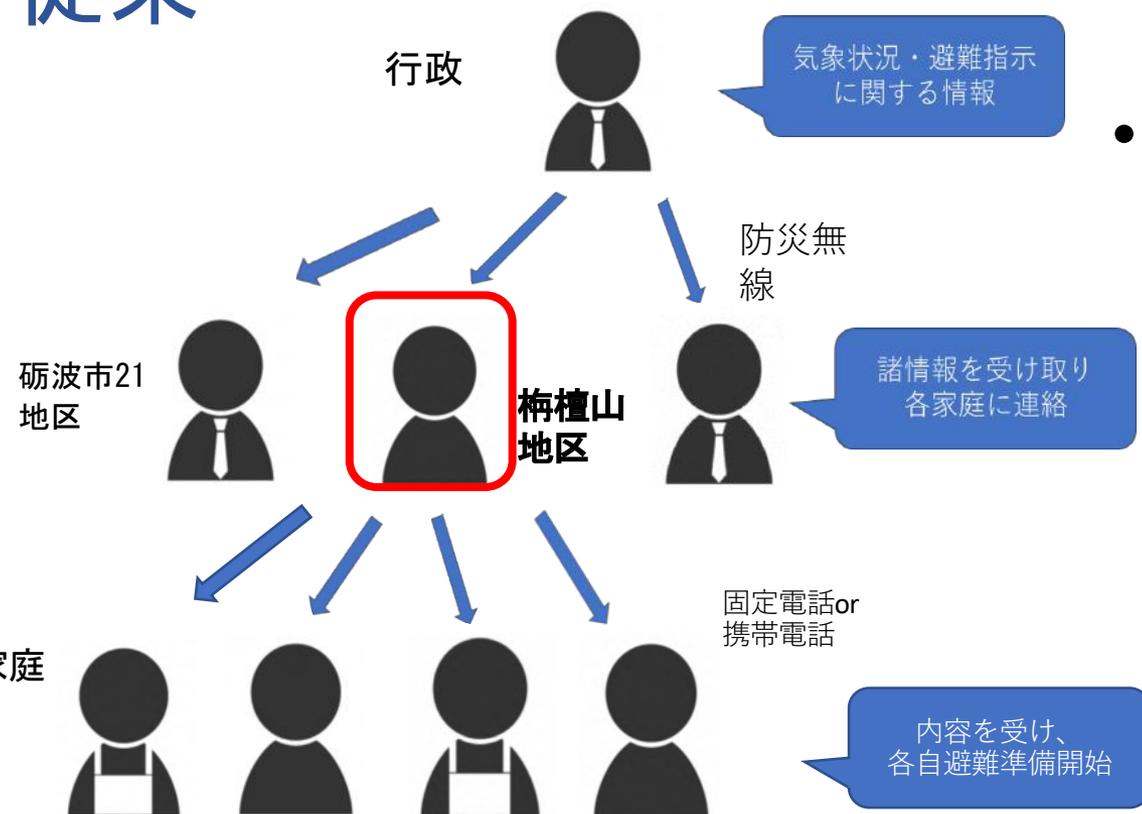
砺波市土砂災害ハザードマップ 桐檀山地区詳細図の一部を使用

課題と解決案②

従来

解決案

- 従来 + 小グループ
→ 連絡を取りつつ避難
→ スムーズな避難の実現



タイムラグ



課題と解決案③

- 情報収集の少なさ (デジタルデバイス)
- 緊急時スマホ・GPS
(使えない道、危険な場所がリアルタイムでわかるetc…)
 - 教室の開催
 - 防災への意識を高める

10 人や国の不平等
をなくそう



10 人や国の不平等
をなくそう



12 つくる責任
つかう責任



持続可能な防災・減災

11 安全な住みかた
まちづくりを





ご清聴ありがとうございました